特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議　庭園部会（第 18 回）

議事録

日　時　平成 30 年 11 月 30 日（金）14:00～16:00
場　所　名古屋城西之丸会議室
出席者　構成員

丸山　　宏	名城大学教授	座長
仲　　隆裕	京都造形芸術大学教授	副座長

オブザーバー

野口　哲也	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主査

事務局
観光文化交流局名古屋城総合事務所
住宅都市局営繕部営繕課
住宅都市局営繕部企画保全課

議　題
1　名勝名古屋城二之丸庭園第 6 次発掘調査（平成 30 年度）の概要について
2　平成 30 年度の工事予定について
3　平成 31 年度予定の発掘調査について
4　名勝名古屋城二之丸庭園修復整備計画（仮称）の策定について

配布資料　特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第 18 回）資料

事務局	1　開会 2　あいさつ 3　今回の議事内容 資料の確認をいたします。議事次第が 1 枚、出席者名簿が 1 枚、座席表が 1 枚、本日の会議資料が 1 冊、資料 1 から 4 で 14 ページとなっています。 本日の会議の内容ですが、名勝名古屋城二之丸庭園第 6 次発掘調査、平成 30 年度の工事予定について、平成 31 年度予定の発掘調査について、最後に名勝名古屋城二之丸庭園の修復整備計画ということで、これは新しい事項ですが、あとでご説明いたしたいと思います。 それではここから座長に、進行をお願いしたいと思います。丸山座長、よろしくお願いいたします。
	4　議事 （1）名勝名古屋城二之丸庭園第 6 次発掘調査（平成 30 年度）の概要について
丸山座長	先ほど少し時間があったので、二之丸庭園に寄って、いろいろチェックをしていました。枯れがあったり、作業用のものが置いてあったりしたので、修復途中ですけれども注意してほしいなと思います。苦言をちょっとだけ言わせてもらいました。 早速ですけれども、3 番目の名勝名古屋城二之丸庭園第 6 次発掘調査について、説明をよろしくお願いします。
事務局	資料 1 をご覧ください。本日ご出席のおふたりの委員の方には、9 月末に現地を見ていただきました。その時点で 7 か所の調査が進行しており、一部途中でした。すでに調査を終えて埋め戻した部分もありましたので、この資料で一通りの説明を改めていたします。資料 1 - 1 の下半分が、今年度に関する記述をしています。1 から 7 区の、合わせて 160 ㎡を調査しました。調査した場所については、現地をご覧いただいた時に、それぞれの場所を見ていただいています。資料 1 - 2 に配置図、赤色で表示しているところが、今年調査を行った地点です。①から⑦までが、地区名あるいは地点名と呼ぶ位置の表示です。順番に説明いたします。資料 1 - 3 から番号順に、それぞれ 1 ページずつの説明資料になります。 1 区は、風信と呼ぶ茶亭の跡地、及びその周辺になります。3 ページの写真は、北から調査区を見たものです。画面の中央が北半分、説明の文中では北部（1N）の部分が、1 段掘り下がっています。この場所は現在も園路が通過していますが、江戸時代、文政期の園路がどういう状況、どの高さにあったのかを確認することを主目的として調査を行いました。3 ページの写真で、画面中央のやや右に、小ぶりの石が平らに並んでいる様子が写っています。お手元に置いたアルバムですと、少し写真の枚数が増えています。あちらと同じ写真が、野口さんのお手元と先

	生方のお手元にあります。現地でご覧いただきましたが、3番目の写真が画面中央の石のアップになります。石が、概ね平らに並んでいる痕跡があり、かつ一部の石に漆喰が貼り付いています。貼り付いているというのは、石と石の間を埋めているような部分がありました。これは園路の延段と呼ぶ石敷きの痕跡が、かなり荒れながらも遺っている状況と認めました。
丸山座長・仲副座長	どこですか。
事務局	3番目の写真です。
丸山座長	このあたり？漆喰というのは。
事務局	漆喰が遺っていましたのが、わずかにこの部分です。
丸山座長	こっちの延段風のところ？
事務局	現場、ここです。池と風信の間のこれです。
事務局	ここの石の上、と言いますか。
事務局	ここを掘りました。ここは飛石ではないです。ここから延段になっています。
事務局	それから奥の2つの石の、黄色のものは別のものですので、その手前の石の、2つの石の間です。
仲副座長	壊れていますね。
事務局	その2つの石の間が、漆喰が見られました。漆喰で固めた石を持って来て、ここにはめる状況は少し考えにくいので、ここに据えられた石を漆喰で固めて、周りの漆喰が大半剥がれて失われたものだろうと考えています。
丸山座長	どのへんのあたりですか。予想としては。
事務局	池と風信の間です。
事務局	この表現が延段になると思いますので、位置的には、この近辺になるだろうと思います。この近辺は、続きの説明をいたしますと、3ページの写真で右側に石敷きの痕跡があって、左側の奥に写っている土の断面が、画面左に向かって下がって、厚みを増す様子がおわかりかと思います。東のほうに向かって、トラックが止まっているのが、東庭園のほうになります。そちらに向かって、もともと江戸時代の地形も下がっていただろうと認められました。延段はこの付近で、この画面の範囲内で造られて、東の端の状況を示して、そこから東へ向かっては、地形的にも当時の園路が下がっていただろうと推定をしました。その対応はまだ、厳密にはできていません。

丸山座長	だいたいで結構ですので、まだ。
事務局	南側、3ページの写真で、後方に土の高まりが写っています。風信の跡だろうと推定をしています。お手元の写真で4ページが、裏から見た状況です。資料 1‐3、3 ページの写真では北側の裾の部分、先ほどの延段の向きの側、北側ですので、ここには石が並んでいます。これはもともとの風信の周りの裾を留める石、あるいは修景のための石だろうと見受けられました。4ページの写真は裏から写したものです。周りの裾まわりを部分的に掘り下げた状況ですと、近代、おそらく明治に軍が入って以降、かなり周りが削られて汚れた土が溜まっていたので、もともと茶亭がのっていた高まりを、東側と南側ではかなり切り崩して、その後高まりの形を崩れにくくするために裾を埋め直したような状況と認めました。建物に関する痕跡としては、5ページの写真の部分になります。これは現地でご覧いただいたかと思います。石が詰まった穴が 1 基だけ見つかりました。この石、あまりしっかり固められた様子はありませんでしたけれども、上に礎石がのっていて建物に関わる遺構であった可能性があるのではないかと考えています。これを踏まえての今後の調査については、後ほど説明いたします。 次に1‐4、4ページ目、2区のご説明をいたします。場所については、資料 1‐2、2 ページの図でご覧いただくと、北園池の西側を掘っています。2区の西側には、笹巻山と呼ぶ石を積み上げた築山があります。4ページの写真は、北西から全体を見たところです。今敷石が、表面に飛石があります。厚みが30cm前後ありますが、概ねこの石の厚みまでは現代の土で埋まっている様子が見られました。その下は、4ページの写真の中央左上に白い粒がたくさん入っている土が見えますけれども、この土の上面に新しい土がのっている状況を認めました。その土を拡大したものが、8ページに写真があります。白色の粘土がブロック状に多く入っている土で、江戸の前期、名古屋城が築城された時に造成をした土である可能性を考えました。話が前後して申し訳ないですが、4ページの写真の画面の右側に、小さく囲った土の形、掘り込みの痕跡を認めて線を入れたものが写っています。こういった掘り込みの痕跡が、飛石を超えて東側ではほとんど認められませんでした。4 番の写真の状況は、丸山先生にご覧いただいた時とほぼ同じ状況だと思います。7ページの写真をご覧ください。笹巻山に向かって、4ページのトレンチの右下部分に掘り伸ばした、裾、山との関係を確認したいと考えました。写っているのは、笹巻山の石と、その下の土です。顕著な石はありませんでした。ピンポールを刺してみた状況でも石はありませんでした。土の様子からも、この土は江戸の後期、おそらく文政期の土、造成の土の上にのっている様子でした。本来は4ページの写真で、白色のブロックの土があって、その上を文政期の造成の土が覆って、そこに笹巻山が組まれている。それが後に乱されて、今は4ページの写真では、江戸の前期の土の上に新しい土が直接のっている状況を認めました。この地点では、8ページの写真をご覧いただくと、白色のブロック、江戸の前期の造成土の下で、黒い土が、かなり急な傾斜で落ちる様子が見られます。この傾斜は、こういった形の掘り込みがここにもともとあって、それを一気に埋めている様子と見受けられました。黒い土からかなりの点数の焼き物の破片が見つかりましたが、掘ったわけではなく、この面を削る時点で焼き物がぽろぽろと出てきました。それは古代から戦国時代のも

	のでした。この形、急な傾斜が落ち込んでいる様子は、おそらく戦国時代、近世の名古屋城が造られる以前に、ここに大きな掘り込み、溝のようなものがあって、それを埋めたのだろうと推定しています。 資料 1 - 5 に移ります。5 ページの写真には、2 か所掘ったうちの東側の調査区全体が写っています。画面下に西側の調査区が写っています。この地点では、まず今の芝生の面からわずかに下がったところで、幕末から近代にかけて機能していた庭園に関わる、水を流したような、あるいは水が集まって流れたような痕跡が認められました。大きく地盤を上げ下げした様子は見られませんでした。その下に、写真で言いますと、今の幕末から近代の面が表層から 20cm 前後のところ、その下に 50cm 程度の深さ、写真の一番、調査区の角で言うと 1.2m 程度になりますけれども、その部分は江戸の後期、文政期の庭園を造る以前に埋め立てた土と見受けられました。その下からここに写っている石が見つかっています。中央に細長く伸びているのは、近代の水道管です。軍が入って施設を整備する中で埋め込まれたものと考えています。お手元の写真ですと 10 ページに、東側の部分を拡大したものがあります。石は北東方向に深まっていく地形に応じて、並べられている様子が見られました。この石の背面の土、10 ページの写真でいうと、石よりも右下付近の土になります。この土は 2 区、資料 1 - 4 の画面左上で白っぽい粘土がたくさん見られると言いました。この土と同じ土と見受けられました。資料 1 - 5、3 区で見つかった石の並びは、江戸の前半の時期に庭園の一部、池のようなものがここに造られて、それを後に埋め立てて今の池の形に近い整備がされた、文政の時期のことではないかと考えています。その様子が把握されました。5 ページの西側の調査区については、1 - 5 の写真ではよく見えませんけれども、11 ページの写真をご覧いただくと、画面の下に黒ずんだ土が見えています。これは 2 区で見られたのと同様に、白色のブロックが多い土の下には黒い土が広がっていて、それは戦国時代の土、今川の時期の名古屋城に関わるものではないかと考えました。 続いて資料 1 - 6、4 区です。これは前庭の枯池の底面を調査したものです。深さ的には 20cm 前後の掘り下げになります。昨年も池底を調査しており、状況としては推定通りで、さらえますと、広く漆喰の池底が見られました。中央に大きな石が 3 つかたまっていますけれども、このまわりだけは漆喰がめくれており、半円状に、取り巻く範囲の漆喰は取り除かれていました。ただしその下が掘り込まれて乱されている状況ではなくて、この下の土は、後ほど 5 区で確認した江戸の後期の造成土と見立てられる土でした。この場所では、3 つの石の間に伐採された木の根株がありますけれども、石の隙間に漆喰の痕跡が遺っていますので、これらの石も後から加えられた状況ではなくて、漆喰を貼った時点で、池を造った時点ですでにこういった配置になっていただろうと見られました。画面の左側に、いくつか単独に配置された石があります。これに漆喰がそれぞれ、裾まで貼り付いている状況でした。今の庭園の配石や見た目は、造られた時から大きく変わっていないだろうと考えられました。お手元の写真の 13 は、方向の違うものですが、状況は同じです。池底の漆喰がパネル状にひび割れて、一部は植物の根が侵入してかなり乱れたところもあります。総じて大きな補修、大々的な貼り直し、漆喰の補修の痕跡は見られませんでした。 資料 7 ページ、1 - 7 が、今の 4 区の東側で、池の上に、池の外側に

	なります。園路の部分で、7ページの写真で、砂利敷きの状況が見ていただけます。ここも10cmほど下げますと、平らな石が出てきます。状況からは、二之丸御殿に関わる施設の根石、礎石だろうと捉えました。石が2つありますが距離が近く、軸線も想定される軸線とはずれていますので、これがそれぞれ何のためのものかは、残念ながら把握できていません。ここでは写真の右下部分で、深掘りした状況が写っていますが、お手元の写真ですと15ページがその部分の写真になります。正面に灰色っぽいものが見えています。これがカマドに伴う石だろうと推定しました。ちょうどトレンチの壁の面が、石の裏側になっています。施設としては石の逆側、調査区の外側にカマド遺構が存在したと考えています。先ほどの礎石の面、1‐7 の礎石が据えられている面に対しては、このカマドは完全に埋められた状況ですので、礎石の並びは幕末の近い時期に機能していたもの。15 ページに見るカマドの痕跡は、その時点では完全に埋め立てられていた、機能は持っていなかった、廃絶したものと認めました。カマドの下にも土の堆積があり、これも深い地形を埋めた土と見受けられました。この土が4区の池底の造成土と同じだろうと仮定しています。15 ページの写真で、下に水が溜まっている様子が写っていますが、地表から1.5m程度の深さで湿地状の土の堆積、想定としては池のような遺構の、自然の堆積土と思っています土の堆積がありました。この地点では、深い部分に池のようなものがあって、それを埋め立てて嵩上げして、今のGLに近い状況まで造成し直したところでカマドが造られた。そのカマドが廃置されて埋め立てられた後に、1‐7の写真の礎石が据えられた。そういう変遷が想定されます。厳密な想定としては難しいですが、1‐7 の深いところの池のような部分が対応するのは、御殿の南庭と呼ばれていた、通称寝覚の御庭の洲浜と金城温古録には書いてある池の痕跡に該当することが、可能性としては、今一番考えられるものとみています。 　資料 1‐8 をご覧ください。園路の部分を掘り下げ、今の園路から30cm程度で石が出てきました。礎石となる石だと思います。写真で4つ写っているのが、おわかりかと思います。設定した調査区は幅が2mです。その調査区の北の壁に2基、南の壁に2基見つかった状況です。高さも揃っており、間隔も概ね1間程度の間隔です。石の質、加工の状況も似ていますので、これらは同じ時期に、同じ建物のために設置されたものと考えています。礎石が、周りを掘り下げた写真が写っていますけれども、礎石よりも下の面に遺構の形をいくつか囲っています。今写真で線を引いたように見えている掘り込みは、礎石が造られた時点では完全に埋まっていた状況が考えられます。これらは江戸の前期、この場所の造成土の、大きくとらえれば2番目、3番目の調査区で見たようなブロックを含む造成土ですので、名古屋城が築かれて比較的早い時期に、いろいろな施設が繰り返し造られた結果を示しているだろうと。可能性としては、築城に伴ってのいろいろな造作、仮設のものを含めて掘り込まれたり、あるいはこの近辺、平岩家老の屋敷が造られたと考えられていますので、それに伴う施設の可能性も残るかと思います。遺物が、出土品が少ないので、厳密な時期指定はできませんけれども、写真に写っている礎石が、おそらく幕末まで遺っていたものと見ています。下の掘り込みの形は江戸の前半期のもの、上の礎石の面が江戸の後期、幕末まで遺っていたものと考えています。 　続いて 1‐9、7 区の調査区です。南池に近い側になります園路部分

	を掘りました。私が引き継いだ調査目的の中には、この部分がずいぶん沈降して水が溜まりやすい状況にあるので、何か地下に施設がある可能性がある、構築物があるかもしれないので、その確認とこの付近の状況を把握するということで調査しました。結果から言いますと、画面の左端で縦方向、南北方向になりますが、そこに写っているのがレンガの基礎です。明治の中頃、後半に建てられた、兵舎の基礎が該当します。以前北池の東側のあたりで調査した際に、同じ建物の基礎が出ており、それと連続する基礎の痕跡になります。この建物は戦後まで残っており、名古屋大学が戦後、学生寮として使っていたそうですが、昭和48年に火災を起こし、その処理が行われた結果、写真の右側に黒色で映っている部分が炭化物の掘り込みになります。これが画面の左寄りで、現状の溝、側溝が写っていますが、この側溝の下まで続いている状況でした。かなり大規模な穴を掘って、火災の処理をしている地点です。ここが沈降するのは、しっかりした土ではなく、こういった穴が掘り込まれていることが原因だろうと推定しました。この場所では、9ページの写真の画面の右奥の角の部分、写真では見えにくいですが、土色をしている、角の右側です。北側の壁と東側の壁に、お手元の写真19ページで、線で囲っている部分だけに、江戸時代の土、ブロック土の痕跡が見られました。東側で、炭の掘り込みが終りかけている様子を見せていますが、兵舎のレンガの基礎の規模が、今9ページの調査区、幅5mくらいですが、当時の部屋の間隔が5mちょっと。5.数mの間隔で、逆側の基礎があるはずです。その基礎がおそらく遺っている状態で掘り込みをしたので、基礎に近い部分はこのように古い土が遺ったのだろうという推測をしています。 　以上で7か所の説明をいたしましたが、1ページに戻っていただくと、1区は風信亭の跡と北園池との間の園路の状況を確認する目的でしたが、風信亭の跡についてはわずかな痕跡を認めましたが、土の高まりそのものは江戸時代のものと認識をしました。可能性としては近代に積まれた土盛の可能性を、これまでは考えるべきだったと思いますが、それはなく、おそらく風信亭の跡として考えていいだろうという状況を把握しました。園路については、ほぼ今の園路に近い高さが江戸時代の後期には変わらない状況だったということ。それから東に向かって下がる状況を把握しました。2番目の調査区では、今の園路が同じくらいの高さであって、江戸時代にもそれほど下がっていた状況はなくて、笹巻山との関係も、今の園路の高さと大きくは変わっていない状況を把握しました。3区については、北園池の南側を調査しました。これも江戸の後期は、少なくとも幕末の時点では、今の地盤の高さがすでに造られていて、庭園としてつながっていた状況。江戸の前半期には、北東方向に向かう池のような形があって、それは江戸の後期、文政期には埋め立てられていた状況を把握しました。4番の枯池については、今遺っている遺構の状況が造られ、当時を概ね維持している、遺っている状況を確認しました。5区は、今の枯池の東側ですが、極々浅いところで江戸の後期、幕末以前から高さは変わらないですけれども、二之丸御殿の跡がよく遺っていることを確認しました。もうひとつは、寝覚の庭と呼ばれる古い庭園遺構が埋没している状況を把握しました。6区では、二之丸御殿の痕跡、御殿の跡の遺構が浅いところでよく遺っている状況を確認し、ここでも下層と呼ぶべき、それ以前の江戸の前半の遺構が遺っている状況を把握しました。7区では、兵舎の跡が江戸の遺構をかなり大きく壊して

	いる状況を把握しました。今年の調査の成果は以上です。
丸山座長	現場を見せてもらった後でも、いろいろ考察していただいてありがとうございました。仲先生、何かありましたら。
仲副座長	それぞれで狙い通りと言いますか。それぞれに成果が上がっていて、今年度は有効な調査だったのが認められます。池の状況で、南側に広がっていた池の状況の痕跡であるとか、現在の二之丸庭園の池自体の変遷を追う成果も得られているところは、非常に興味深いところだと思います。さらにその前の時期ですよね。築城当初の遺構面があって、今川期のものまで到達しているということで。それは今後どう扱うかは、なかなか難しいです。どんどん上に積み重ねられて造られてきているので、古い事項のところまで探りよる状況がわかったことは、素晴らしい成果だと思います。漆喰の園路で、一番上のところ、もうこれは埋め戻されたのですよね。
事務局	埋め戻しています。
仲副座長	埋め戻す時に、どういう保護の措置をされたのですか。
事務局	山砂を入れまして、
仲副座長	山砂を入れたのですか。
事務局	漆喰の、周辺も保護しています。ただ、非常に園路からの深さが浅いところですので、山砂を入れて表層土を戻す、砂利を敷く、それをするためにそれ以上の手立ては、特に取っていません。
仲副座長	そうですか。漆喰は、特にサンプルは取らずに、そのまま埋め戻しされたのですか。
事務局	3か所遺っている漆喰と、同じ質だろうと考えられたものが、周辺で掘った土の中に混ざっていました。それをサンプルとして取りまして、今成分の分析をしていただく準備をしています。3か所それぞれ離れていますので、見た目はよく似ている、分析に出すものも、肉眼で私どもが見る限りでは、それと共通しているということです。まったく同じものだという確証がないのが、慎重になるべきところかと思います。
丸山座長	漆喰は今までいくつか、サンプリングをしてもらっていますよね。その成果はまだ、分析結果は聞かせてもらっていなくて。伊藤さんは、そういうのはご存知ないですけれども。そのあたりは今後、池の修復とか、後で出るかもしれませんが、練塀とか、あの辺の今後の修復の仕方にも関係することがあるので、少し気になっています。
事務局	全体を把握できていない部分がありますが、昨年に漆喰の分析をかけたものがあります。その成果報告は、納品されています。ただそれが、厳密にどこの、どういったものなのか。枯池のサンプルが出ているのは知っています。それ以外のサンプルも参考のために、あわせて出してい

	るようですが、まだ正確に、いつの時期を想定して何かというところまで把握していません。今年はこの部分と南の池の池底の漆喰のはがれたものも出しています。いくつかのパターンが出てきた時に、時代を推定できるような成果が得られると期待しています。
丸山座長	南池は近代でされたので、はっきりしていますけれど、江戸後期の、いくつかの中で、どういう配合とかやっていたのかが、今後の工法の関係もあって、知りたいなと思っています。整理と言いますか、出てきたらまた比較してもらいたいです。 少し伺いたいのが、笹巻山までトレンチをやりましたよね。この石の下は、解析もなにも、そういうものは要請なかったですか。そこまでやれなかった？
事務局	お手元の 7 ページの写真が、石の面と言いますか、東向きの面が概ね垂直に立っているような位置でした。その真下で、掘削は止めました。そこで観察する限りは、何か石に向かっての断面というか、掘り込みがあるとか、石の下に別の石をかませているとか、そういった様子は見られませんでした。周辺、石の下方向を含めて、ピンポールを 15cm から 20cm 程度差し込んでみましたが、特段土が固まっている、固められているとか、石がしっかり入れられているとか。
丸山座長	根石とかね。普通はこれくらい大きいのが積まれたらね。
事務局	そういった様子は見られませんでした。
丸山座長	こちらでいう 6 ページですが、近代の三和土ですが。三和土の厚さは、まだ出されていないのですか。
事務局	6 ページの、前池の、
丸山座長	書いてありましたか。ああ、ここですか。
事務局	そこです。
仲副座長	3cm。
丸山座長	3cm。3 から 4 ですか。
事務局	はい。中央よりやや下に。
丸山座長	非常に薄いですね。これは。
事務局	思ったよりも薄い様子でしたが、割れている部分はあちこちありました。どこで見ても、3cm あるかないかとういう印象で。上面はなでつけられて、平滑に仕上げられています。板状のものが貼られたということではもちろんなくて、下の土の面を形づくったところに漆喰を貼り付けていったという印象でした。

丸山座長	そうすると、工法としては石組をやった後で3つの石があるので、その後、3、4cmの漆喰でずっと周りを固めていった、そんな感じですか。
事務局	そういう印象です。
丸山座長	そうすると、水を溜めるという感じではないですね、これは。
事務局	あまり、そういう機能はないかと。
丸山座長	雑草防止だろうか。
仲副座長	その上に円礫を貼っていた痕跡が一部あったということですよね。
事務局	はい。1‐6の写真の中央に断面が見えています。白っぽく、そこの上に並んでいるのが、3、4cm程度のかなり丸い、
丸山座長	この写真でいうと、どのへんにあたりますか。12ページ、13ページを見ていますが。
事務局	12ページですと、ここの断面で見えている、
丸山座長、仲副座長	ここですね。
事務局	平面的なものも残して、一部写真は撮ってみましたけれども、びっしり並ぶほどの状況は見られませんでした。
丸山座長	ばらまいた感じですか。
事務局	全面に散らばっている様子はありましたけれども、それにしては量が、
丸山座長	少ない。
事務局	印象としては、そうです。ただ底をさらえたり、手入れをすると、どんどん動いたりすることもあるかと思いますので。これがもともとまかれていたものかどうかも、ちょっとわかりかねます。
丸山座長	ここの庭も、近代の庭として、整備していく方向に入っています。雨が降ったら溜まって、結構それふうに見えるかも。実際は、池として水を溜めた感じがないような気がします。3cm程度では。
事務局	土の堆積も、水底の堆積が遺っていることはありませんでしたので。
丸山座長	二之丸御殿の礎石類が少し出始めて、後で計画をお話いただきますけれども、感触としてどうですか。二之丸御殿の礎石を追っていけるような状況が出ますか。
事務局	率直な印象としては、2か所で御殿に関わる遺構が出ましたが、予想

	したよりも浅いことと、予想したよりも良好であるのが、5番、6番の調査区の印象です。この先、これは大部分の調査にも関わることになるかと思いますけれども、6番のように石の並びがはっきりした状況を、もう少し広げていけば、幕末に近い絵図との対比で、柱の位置を具体的に想定できる可能性は高いだろうと考えています。今は絵図のこの付近だろうということは言えても、この柱がここに当たるところまでは、把握ができませんので。これだけ遺りがいいのであれば、離れた場所で同じような状況が把握できてくれれば、この絵図のこの位置に当たるだろうという想定ができてくると思います。そうすると御殿の全体的な推定もしやすくなるかと思っています。
丸山座長	後でそういう話になると思いますけれども、発掘している成果を、来られた人に見せるやり方も考えないといけないと思っています。そういう礎石が出てきた時に、雁行しているようなところを杭で打って、空間的に、来客にある程度の発掘の成果を見せることによって、ここの庭園がどれくらいかができればと思っています。特に、今は池だけに集中していますけれど、二之丸御殿は一番大きい御殿です。そういうものが、今後の発掘の中で出てきて。厳密な話しは別ですけれども、出てきた部分でそういう表示も、杭でも打って、のぼりでも立てたらいい気がします。 それでは、結構いい発掘調査の結果が出たことで、4番目になりますか。平成30年度の工事予定について、続けて説明をお願いします。
事務局	今の3番の、これまでの三和土の化学分析を、これまでに発掘で発見されるたびに行っています。それが何件かデータが集まってきていますので、1回まとめて、どんなものが今まで見つかっているのか。今後の修復工事の設計に参考になるかたちに加工しようということで、今取組み始めました。今年度は今日来ていただきました、コンサルの環境事業計画研究所にお願いしました。同じように南蛮練塀も、三和土と同じように劣化が進んでいますので、それがどういう成分でどうなったか、過去に調べたデータがいくつかあります。
丸山座長	あります。それは、我々はまだ全然見ていないので。
事務局	それは単発でやられていまして、網羅するまとめができていませんので。例えば発掘調査ですと、これまで第1次から第6次まで行われましたが、前半の第1次から第3次までは、まとめて成果の報告を行っています。同じように、今後もある程度、数件、調査がまとまったら、取りまとめることもやっていきたい。それを修復の、設計の参考に使えるようにしていきたいです。
丸山座長	それで、出てきたら1回試験施工をしてもらって。そういうことも考えてもらって。長期にわたる修復になると思うので。今試験施工してもらって、使えるのは3、4年後かもしれないので。状況がわからないので、そういうことも考えてもらったらどうかと思います。 そうしたら4番目のご説明をお願いします。
	(2) 平成30年度の工事予定について

事務局	資料２をご覧ください。今年度の工事は、来年度の隣の場所と言いますか、池の西にほうからやってきていますので、今年度は池の一番東のあたりを、必要性の高いところの修理をやろうと思いました。一方で池の東側の余芳を建設する場所が、概ね位置は決まりましたので、余芳の建設に向けての敷地造成のこともあり、そのへんを今年度の予算で組むことを考えました。それが資料 2‐1、色塗りで示しています。修理工事は、あまり十分なことがやれていません。とりあえず水色の丸く塗ってある部分は、暫定の石橋が架かっていますが、権現山のほうに向かって渡ったところの、橋を受けている自然石がありますが、ひび割れています。将来、ここの橋を暫定ではなくて、ちゃんとした石橋をここへ持ってくる構想がありますので、その時のためにも割れている石を補強したいと思っています。前年の工事でも、もっと小さい石でそれをやってみました。見た目には上手く修復ができていますので、今回も同じような手法でこの石も、ひび割れを直したいと考えています。水色の部分は石材強化処理という名前で、ひび割れた石の修理を考えています。 先ほど敷地造成と言いましたが、余芳を池の東のほうに計画しているので、余芳と池との間の取り付け、余芳の工事は南のほうから、下のほうから工事用の車両を入れることを考えているので、余芳の予定地と池と南側のあたりの敷地造成を行います。現在は園路になっています。南北のうねった園路になっていますので、園路のブロック、縁石を外したり、舗装されているので舗装をめくったり、余芳の予定地が現在芝生になっていますので、表面の芝生をはがしたりなどの撤去工事を行い、余芳を建てる準備をすることを予定しています。それから、上のほうに黄色で塗った帯状のものがあります。余芳の予定地に隣接して、現在、発掘で今まで発見された石やいろいろなもの。あるいは大きな陶管などを置いて、保存・展示してあります。場所をもっと東へ移そうと考えています。あまりにも余芳に近いものですから。東へ移転して、展示していくことを考えています。
丸山座長	東のどのへんになるのですか。
事務局	ここの場所のまったく東の、なるべく北よりのところ、通路沿いの、現在は植樹帯になっているところをイメージしています。暗渠の北側くらいを、今考えています。
丸山座長	それは、来園者に見せるということですか。
事務局	見せるようにです。今よりは見やすくしたいと思います。
丸山座長	裏に放っておいて、バックヤードみたいになってしまうと。もの自体はバックヤード的だけれども、出てきたものを積極的に見せるというか、そういう方向であれば結構です。
事務局	現在も暫定ではありますが、３か国語で表示をして、これは発掘調査の中で出てきたものです、決して変なものではないことがわかるようになっています。 １枚目が、工事の概要になっています。続いて２枚目です。ここでひとつ、ご意見をいただきたいと思います。敷地造成の高さを示したもの

	です。四角く色を塗ったものは、現在地下に埋まっている兵舎の基礎です。土中に埋まっていることは、以前の発掘調査でわかっていますので、それらを重ね合わせた図面が、この図面になります。計画の TP13.6 とか、数字が入れてあります。この 13.6 は、前回の庭園部会の時にお話ししました、余芳の直近にあった水鉢の基礎が発掘で見つかっていますので、それを手がかりに余芳の建物の位置を決めています。その発見されたものを、そのまま露出展示はできないので、30cm 覆土した状態の高さで余芳の計画地盤を想定した数字が、この数字です。13.6 の高さが、現在この図面で示している余芳の地面の高さです。仮に、それで造成した場合、池のほうへ傾斜して池の護岸に取り付くように、造成を普通はやっていきます。そうした場合、そうやったと仮定すると、最初にお話しした兵舎の、今は地中に埋まっている基礎が、上に出てくる部分があります。出てきそうなところが、赤い点線で囲ったところになります。仮に 13.6 の高さで、これ以下に下げることは、今までの考え方と違ってきますので、13.6 の高さか、それ以上の高さでやっていくことになると思います。取り付けて、池のほうへ斜めに削っていった場合に、この建物の基礎が、最大 20cm くらい地面の上に出てくることになります。これも明治の建物の一部ということで、保存・展示の考え方からいくと、そのまま露出して 20cm の帯状の建物の基礎が見える状態で、これはこういうものがありましたというふうにやっていく方法がひとつです。あとは、建物の基礎が見えない高さまで、計画地盤を上げてやっていくという考え方になるかと思います。そのへんのことで、皆さまに。
事務局	基本的には、大切な遺構ですから、保護する方向で検討しなければいけないと考えています。そうなると、すり付けのことを考えると、必然的に余芳の高さを少し上げないといけないことになってきます。全体の整備をこれから行っていかなければいけないものですから、余芳を起点として全体がどうなるかを考えていくにあたって、今年度の造成については手戻りがないように、おおまかなところで止めたいと思っています。
丸山座長	兵舎の遺構をつぶして、地盤だけではできないので、覆土して。それは、築山とか、いろいろなやり方であれば、仮に 20cm 上げたとしても、できるとは思っています。近代の遺構だからつぶすやり方は、基本的には、文化庁もあまりそういうのは、いいと思っていないので。この状況を上手く、造成の時に。そのレベルは、2、30cm は軽くできると思いますので、遺していったほうがいいと思います。 余芳も荒造成と言われたので、造成する時に現場で確認をして、なるべく計画高がいいですが、20cm くらい上がっても仕方がないと。むしろ、そういうことで、もとの近代の遺構を保護しているのは、積極的にやっておいたほうがいいかと思います。取るといっても、これ土留めになっています。基礎が。よくも悪くも。それを削るよりかは、活用したほうがいいところも。特に上の小さい楕円などは、土留めになっているような気がします。 仲先生どうですか。まあ、普通そうしますよね。
仲副座長	仕方ないですよね。土留めになっていますから、そのあたり傾斜になったりして、危ないけれども、それを土留めとして、ちゃんと機能する

	かどうかのチェックもいります。これごと、いいかどうかという。それは大丈夫でしたか。割とがっちりした遺構ですよね。
事務局	それは確認しながらです。
丸山座長	こっちのほうをやった時、結構下までしっかりしていました。同じ兵舎だから、高さで見てもらって、どれくらいの深さがあるのかと。
仲副座長	将来、これ埋めて造成して、水が浸透していったりして、ここでこう水が溜まってくるとか、整備の地中で動く動き、ある程度動きを予想しておいたほうがいいかもしれないです。今これ、どんな形でしたっけ。遺構は埋め戻しているのですよね。
丸山座長	埋め戻しています。
仲副座長	真砂で埋めたのですよね。
丸山座長	ここは山土で、全部埋めています。権現山のほうは。特に水の関係は、どうもないと思います。
仲副座長	大丈夫ですかね。
丸山座長	表面に芝を貼ったりしているので、中に浸み込んでいくことは、あまり考えられないから。むしろ表面排水をどうするのかが、重要になってくるのかと思います。誰が聞いてもやはり、覆土して戻したほうがいいと言うと思います。
事務局	その場合、どの程度の覆土を目安にすれば。
丸山座長	それは現場です。これは図面でやっても、わからないわけだから。天端だってこんなになっているかもしれないから。それはそれで、また立ち会ってやらせてもらえればと思います。
仲副座長	最大で 20cm ですか。
事務局	この高さで削っていくと、下げていくと 20cm 出るので。
仲副座長	これ去年、整備の設計図を見せていただきました。あの時に、断面図がこれでいいのかと、少し思っていました。
丸山座長	いや、あまりやっていなかった、それで今頃になって出てきたから。
事務局	そうです。
仲副座長	おかしい、ということでしたので、その後。
丸山座長	言っていたけれども。

事務局	重ね合わせのチェックが、あの時点はできていませんでしたので。その後に、このことがわかりましたので。
仲副座長	するようにということでしたが、その改訂の平図面、図面を拝見したのかな。
丸山座長	高さ関係はチェックしていなかったから、いけるだろうという予想のもとにやって、今回やってもらうと、こういうのが出てきて。まあ、どうしましょう、っていう話でしたけれども、事前に文化庁とも相談されたというので。今日は、計画は、向こうからどのようにしろではなくて、ここの部会で方向性を出してほしいということですから。わって、取るなっていったら、えらいことになりますから。一応、覆土でやるということで。
事務局	覆土で、承知しました。
仲副座長	立ち上がってきますから、多分おさまるとは思います。
丸山座長	おさまります。他でも、いろんなところがおさめていますから。 それでは次に、
仲副座長	ちょっと待ってください。30 年度の工事だから、今年度の工事ですよね。
丸山座長	今年度に造成したものです。
事務局	12 月に建設業者が決まる予定です。
仲副座長	では、もう設計はできているのですか。
事務教	はい、そうです。
仲副座長	どれですか。
事務局	現在の想定はこれですけれども、今のお話で出ない高さに設定しますので。
仲副座長	これから、かかるのですか。そうですか。
丸山座長	最終、荒造成をやってもらってちょっと、仲先生に来てもらうのもあれなので、私と野村さんとで、権現山と同じように確認させてもらうということで。
仲副座長	今年は造成まですね。その後、しっかりしていくのは、この後ですか。そうすると、さっそくあれですよね。延段がきたりするから、先ほどの漆喰の、
丸山座長	だからある程度の深さを想定しておかないといけないです。設計、こ

	の通りやるとしたら、延段も少し下がるかもしれないです。そうするとここの端にいく飛石が、少し変わってきますけれども、仕方ないです。それをやるのは、造園さんは、やっている人は得意なはずですから。現場あわせで、やってもらうことでいいですが。むしろ余芳の高さが上がることで、余芳周りの造成みたいなものが。造成はここだけですけれども、後でまた議論しなければいけないです。全体の、追加指定のところの造成も含めて、それを念頭に入れながらここもやらないといけないと思うので。
仲副座長	基礎の部分で最大 20cm 出るのは、どこから出るのですか。最大 200mm 基礎露出ってありますが、どこから出てくるのですか。
事務局	仮に、前回の部会の時に示しました高さで全体を下げてくると、建物の基礎が最大で 20cm 出るのを、ここで示しています。今のお話のように、建物基礎が出ない高さまでにとどめるということですから、もっと全体が上がってきますので。
仲副座長	全体は上がりますよね。
丸山座長	上がります。ここは少し傾斜が、
事務局	はい。20cm 以上上げれば、建物は出てきませんので。
丸山座長	基礎が出ないということね。
仲副座長	基礎は出ないけれど、その基礎の上にもう一度盛るわけでしょう。40cm くらい上がるのではないですか。
事務局	それをどのくらいの覆土にしたらいいのかと。建物基礎を守る観点からすると、30cm の原則をそこでやるのかどうかっていうところで。最大、そこまで上がっていくかと思います。
仲副座長	兵舎の基礎は、もちろん近代の重要な遺構ですけれども、出てきたものをすべて遺すのか、ある程度の平面系のところで、遺りのよいところまででとどめるか。という判断がいるかもしれないです。
事務局	どこがひっかかってくるかにもよるかと思います。現地の確認も当然いるでしょうし。
丸山座長	基本は遺さないといけないと思う。
仲副座長	全部ですか。
丸山座長	全部遺さないといけない。それは、造成の時に対応できると思っています。建前は 30 だけれど、20 になるところもあると。ただ、構造物を造るわけではないので、上は芝であったり、ここの状況だと延段です。延段で30保護しておいて、あと 5cm くらいになるかもしれないけれど。延段の下のところ、30cm も掘るとは思えないけれども、延段の仕方も、

	工法、ここひょっとすると、バラスとかを敷くときに注意しなければいけないところは出てくると思います。この上に建物を建てて、基礎がいるところではないので、そんなに苦労はしないと思います。近代の遺構ですから、飛ばしてしまうのは、荒っぽい方もおられますけれども、やはりここはそれを対応できるくらいの技術が、造園さんはあると思うので。これは仮に、こういう図面ですけれど、もう少し詳細なところをおさえながらしたらと思います。
仲副座長	ちょっと現場合わせでは無理だと思いますので。やはり高さをしっかり、おさえたかたちで図面を作っておくのは必要だと思います。
事務局	今日、ご指導いただいた内容で計画高の図面を作り直して、それで現場というふうに進めたいです。
丸山座長	できれば、断面をわかりやすいように。いつも断面がないので。池に向かっての傾斜のところの断面図を出してもらったほうがいい。
仲副座長	30cm はいらないような気がします。
丸山座長	いらないと思うけれど。だから現場ですね、それは。立場上で言っておられるから。断面図を出してもらって、次回それの報告をしてもらいたいと思います。 それでは 31 年度の発掘調査について、お願いします。
	(3) 平成 31 年度予定の発掘調査について
事務局	資料 3 をご覧ください。赤色で来年度の計画を示しています。今の時点では、これは市内部で予算を要求する都合があり、設計を仮に作る必要がありましたので、書き込んだ面積 174 ㎡を想定しています。詳細については、ご意見をいただいて、実際のものに組み替えていくことを想定しています。大きく 4 地区の調査の組み合わせになっています。北から単純に番号順に振っています。①番、②番は、南蛮塀の近辺です。南蛮塀が機能していた当時の地盤面の確認が、平成 27 年度に①と②の間とのところ、東のほうにもう 1 か所掘っていますが、調査の記録内容を確認しましたら、少しまだ情報が不足している印象があります。特に①の近辺では、南側の多春との高さの関係がどうなるのか。これも把握する必要があると思います。①番、②番は、厳密にここを掘るのではなくて、面積的にこの近辺、①、②、あるいはその周辺で必要な情報を得るための設定ということで、調査区を書き込んでいます。
丸山座長	もう少し西にいかないと、あたらないのではないですか。①番って。建物。
事務局	現地の、①の数字の上に小さくポッチがあります。施設や樹木等があります。現地で正確にこの位置を割り出すということではないですけれども、西へ行くと調査区が小規模になるか、または設定が難しい状況も出てきますので、今の図面ではこの位置を表示しました。

丸山座長	そうですか。基礎がでない気がしますけれど。
事務局	そういう意味で、設定が仮のものと考えていただければと思います。
丸山座長	ここですよね。
事務局	はい。迎涼閣の位置については、この調査で直接、
丸山座長	やろうという意図はない。
事務局	そうです。そのあたりも、ご意見を受けてということになります。
丸山座長	ついでと言ったらおかしいけれど、多少、木を切ったらどうですか。
仲副座長	伐採ですか。
丸山座長	結局、あそこも立派な松があるけれども、最終的にはいずれ切らなければいけないところで。例えば、ここ全体のこれからの計画の中で、迎涼閣などの建物の表現をどうするかっていうのがあって。様子みますか。
事務局	小規模なトレンチを入れる想定は、書きながら考えてはいました。
丸山座長	一応決めておいていただいて、出てきた状況によって少し西のほうをやるとか、そういうことにしましょうか。 予算上は、面積で決められているのですか。200 ㎡やってほしいというのは、174 は非常に微妙な数字なので。
事務局	庭園に関する全体の予算を準備するにあたって、発掘調査の経費を内部で提示を受け、それに合わせて、今私が持っている知識で深さ、工程を組み込んでいくと、
丸山座長	174、ということですね。
事務局	金額あわせの結果と言ってしまえば、そうなってしまいますが。200 ㎡にすると、深さをどこかで浅くするという調整になってきます。どこで何を目的にして、どこまでの深さを掘る必要があるか。それによって面積の増減をすることになります。
丸山座長	所長さん、二之丸庭園は苦労しているわけですよ。多くとは言わないけれど、もう少し何とかならないですか。どうしたら、予算は、もう少し配慮してもらえるのですか。しれたお金ですよと言ったら、悪いけれど。
事務局	そうですね。そういう意味では、他の建造物などに比べれば、確かに。
丸山座長	全体部会で、そういう話をさせてもらってもいいですか。言うくらいは。

事務局	それは、別に構いません。
丸山座長	いいんですか。
事務局	マスコミも入ったりしますから、そういうところに、世に少し知らしめることも。
丸山座長	城郭庭園としては、これは日本で一番大きいし、一番資料もあって、素晴らしいものですので。天守閣からしたら、100 分の 1 じゃないですか。1000 分の 1 くらいか。そういう予算になっていて。当初文化庁が、本丸御殿をやろうとした時に、二之丸はどうなっているんだという話で始まったのが、経緯です。それ以後、非常に疎んじられているような気もしないでもないです。僕も部会長を引き受けてから、他の部会の予算などを聞いていて、えらい二之丸庭園は予算が少ないなと。予算だけじゃないですけれど、人員も削減されるし。どこで言ったらいいのか、教えていただいたら、そこで言いますので。よろしくお願いいします。すいません、ちょっと話がそれました。
事務局	資料の説明を続けます。①番、②番が、1 か所目で南蛮塀、可能であれば迎涼閣に関する調査区を想定します。③番 a から e とありますが、今年調査をした風信の周辺で南側と東側を、少し面積を広げて掘り下げることで、裾留めの石の痕跡等が見つからないか、それを主目的として調査区を設定してみました。これも周辺の樹木や施設との関係で、土をどこに置くか、どれくらいの規模でどれくらいの深さを掘るかという想定をすると、面積的にはこの付近になるだろうと。どんな発掘調査でも、掘れば現地を破壊することは避けられませんので、これもかなりの影響を生ずると考えています。これで痕跡が把握できなかったとしても、残りの空白部分を埋めるような調査をする想定はしていません。 ④番については、茶亭に近いところでそれほど、整備された今の状況を大きく乱さない想定で、大きさを小さくしています。⑤⑥⑦⑧についても、実際に掘って、掘った土をどこに置くか。その時に来場者がどういう動きをするかという想定をして、調査区、掘削可能な位置を想定しました。
丸山座長	これはいずれも、二之丸御殿の調査ですか。
事務局	はい。礎石の確実なものを追加していって、御殿の絵図との対応を確認したいという考えで、④番から⑧番については設定しています。 大きくくくっての 4 か所目として、9 番の a から c があります。南池の周辺、あるいは南池の池底の状況を把握するためのトレンチの設定を考えています。昭和 50 年前後に南池を整備して、今の庭園の形が造られました。その頃の調査記録が、十分に整理されていません。その時にどんな池底の遺り具合、どの深さまで調査して、どんな土を確認したのか。今も石が見えていますけれど、その石は元々あった石を遺しているのか。それとも据え直しているのか。据え直したとすれば、設置の状況はどうなっているのか。この先、この付近を整備していく、あるいは発掘していくための基礎的な情報を得る想定で、仮にトレンチを 3 か所設定しています。

丸山座長	少し気になっているのが、北池だと三和土が立ち上がっています。この発掘のあと、そのまま縦の一番長いのを、そのまま池のほうに連続的にやってもらえないかと思います。
事務局	南北のものをつなげて、トレンチを。
丸山座長	つなげて。というのは、北と同じような工法をやっているのかどうかを確認できれば、一番大きな成果だと思っています。左のほうといいますか、こちらの横になっているのは、ここのやる目的は何になりますか。
事務局	南北を、
丸山座長	１本で、
事務局	入れています。左側のものについては、長方形の下に、地形を表しているラインだと思いますけれども、現況で表面がえぐれています。窪んでいます。
丸山座長	窪んでいるんですか。
事務局	それが何を反映しているものなのか。もともとの池の地形というか、池の周辺の状況を反映しているのか。そのあたりを確認するのと、非常に情報が少なくて、南北方向のトレンチで求める情報、下の土の埋まり具合とか、今の造成の具合ですとかが確認できない場合もあると思いますので、地点を離してもう１か所設置するという考えです。
丸山座長	一応計画はこうですけれど、池のほうに入る可能性もあるわけです。
事務局	設定は、紙の上の仮のものですので、形や面積、長さ等は、これから確定していくことになります。
丸山座長	わかりました。仲先生どうですか。
仲副座長	今の南池は、それでいいと思います。場合によっては、北のトレンチと南のトレンチをつなぐかたちで、サブトレンチで土層のつながりを見ることも、余地としてあるわけです。④番から⑦番の二之丸御殿の礎石を狙っていくものだと思いますけれども、⑤とか、⑧とか、⑥とか、ここに設定した理由は、あれですか。
事務局	⑥番については、今の園路から外れた平坦面が限られています。樹木を避けて、掘れる場所です。
仲副座長	掘れる場所をということですか。
事務局	方向的にも変則的な方向をしているのは、幅も狭くしているのは、掘って、周辺に土を置いても、樹木や周りにダメージがない状況が、ここしか確保ができなかったというのがあります。

仲副座長	過去、今年度もそうですけれど、何か所かで確認をされています。御殿の図面と現況をある程度重ね合わせをして、ここを掘ると何が見つかる可能性があるのか、それの重要度が必要ではないかと思いますが。
事務局	言われる通りだと思いますが、今年の調査で御殿がよく遺っている状況がわかりました。前任の担当者も私も、絵図とここの位置関係を重ね合わせる作業をしてみましたが、近世の絵図に描かれているもの、柱の位置や間取りが、見た目正確に描かれているものを、そのまま単純に当てはめることができません。どこに基準をとるかで、その石垣の角であったり、離れた地点の石垣と合わせると、合わせ方によってかなりの位置ずれをしてきます。今やろうとしている調査は、名勝に指定されている現地に、大きなダメージを与えないで調査できる場所がどこかという考えで設定しています。この結果、今年のように礎石の位置が、単純に良好に出てくれれば、そこから推定できる建物としての礎石の位置関係が、相当把握できます。それに絵図を合わせるという。次の段階で、この場所でこの部屋のこの付近が出る、あるいは御殿の北端が把握できる情報が得られれば、場合によっては今の樹木を切って、その場所を掘るとか。遺っている痕跡、現状の地表面、見た目に影響が及ぶような調査区の設定も、必要になってくるかとは思っています。
仲副座長	よくわかりました。
丸山座長	確かに限られた予算で、いろいろな、園路を入園者に対しても配慮をしなければいけないから。もう少し予算があったら、ここくらいばっとね。予算がないから、苦労している状況は、所長さんにも聞いておいてもらって。こちらの話と、例えば向こうの部会での話で、何桁も違うから、配慮してもらうようにお願いしたいと思います。だいぶ違います。3桁くらい違いますか。4桁ですか。 それと先ほど言いましたように、出てきたものを上手くアピールできるようにして、二之丸庭園はすごいんだというところを、もう少し一般の方にもわかるようにするような工夫もいるかと思っています。
仲副座長	前回、現地を拝見した時に、③番で、ある程度建物規模を現地に落としてみて、それで次の調査区を決めていったらどうでしょう、っていう話をしていましたけれど、それは何かありそうでしたか。
事務局	厳密な作業は、結局行うことができなくて、今の礎石の痕跡らしい1石だけを見つけたわけですけれども、そこから風信の、なにぶん畳 1畳分の長さと半間の縁周りしかありませんので、今の礎石が北端だと想定しても、裾を大きく超える範囲まで建物が広がった可能性はありません。それが西端だと想定した場合も、今の高まりの東端を超えることもない状況です。来年の、このａからｅと書いてある調査区を掘ったところに、土台となる盛土等の痕跡が遺っていなければ、位置合わせは、今年見た礎石の痕跡ひとつしか頼るものがなくなるという状況です。
丸山座長	もし、復元的な整備をする場合、その1石が重要です。 それでは、先ほどから指定範囲が増えたことで、6番目ですか。名勝名古屋城二之丸庭園の修復整備計画の策定について、説明をお願いしま

	す。
	（4）名勝名古屋城二之丸庭園修復整備計画（仮称）の策定について
事務局	名勝庭園の区域が今年の2月13日に、面積が6倍に増やしていただけました。真っ先にやりましたのが、リーフレットを、この度面積が6倍に増えて、藩主の居宅付きの庭園としては日本一の規模だということを、文化庁から言われましたので、PRに努めています。文化庁からも、ぜひとも早く名勝庭園、区域が追加になったので、早く追加した区域の事業計画と言いますか、今後どんなふうにやっていくかを策定するようにというお話をいただいています。こちらとしては、前から余芳を早く造りたい。せっかく戻していただけたので、早く造りたいということもありますので、余芳を現場に造っていくことが、まさに追加指定の区域の出発点の位置づけで、早く計画を作るように文化庁からも言われています。資料4をご覧ください。追加指定の結果、面積が6倍になりましたので、その全域にわたって計画を作りたいということです。 従来は平成25年から平成34年度までの10年計画で、毎年の事業、予算要求、その他、進めてきましたが、34年度になってからでは遅いので、早く次のスタートを切るようにということです。今年度中に概略計画をまとめるようにと言われています。ぜひとも、次回の庭園部会までには、それがお示しできるように概要を進めていきたいので、ここにスケジュールをお示ししました。30年度が、そこでスタートし、実際には31年、32年のワーキングと言いますか、部会の皆様のご意見をいただきながら、まとめていきたいと思います。もう1枚資料を付けていますが、急いでやらないといけませんので、個別にご相談する機会が増えると思います。何卒、よろしくお願いいたします。
事務局	補足といいますか、文化庁とお話をさせていただく機会がありました。今までの旧名勝区域は、江戸期の御庭と明治期の御庭が遺っています。それに対して、一部壊れているところを直すあるいは補修をしていくという、修復が中心だったかと思います。これからは、江戸期の御庭が軍の頃に改変されて、その後公園的な整備を受けています。その庭園を、どういう姿にするのか。そのためには、どういう仕事あって、どういう期間を持って、どういう手順でやっていくのか。そういったことを、しっかりと計画を作ってくださいと言われています。我々としても当然のことだと思っていますので、次年度からしっかり2年間かけて細かい計画を作っていきたいと思います。ただ、一方で余芳のスケジュールがすでに動いており、来年度実施設計をして、さらに次年度建築という想定をしています。余芳を先にやってしまって、その後計画ができて、これは取り合わせが悪いぞ、ということになってはいけないというご指摘もいただいています。今年度については、余芳のことを念頭に置きつつ、全体の概略の図をある程度作成しておいて、余芳を先行してやっても問題がないことを、部会の皆様にご承認をいただいて、進めていきたいという趣旨です。
丸山座長	最初に言っていましたけれども、雑談で言っていたんです。範囲に増えて、まずは、だいたい何でもそうですけれど、造成地のことが一番大きくて、ここをよく見ていくと、いろいろな山があります。妙義山とか、

	それぞれ名前が付けられているのがあって、かなりアンジュレーションというか、豊かなところです。ここ。そういう大きな造成を、全体にやっていくような話が、まずいると。例えば、造成はしますけれども、そのまますぐに取りかかっても落ち着いていないから。権現山もそうでした。造成してから１年おいて、落ち着いてから道を付けたりしました。そういう全体に関わる計画を全面に出していかないと、文化庁としては、他のところはどうするんだっていう話になってくるので。その時に気になっているのが、雨水排水のことです。雨水排水の現況と、やった場合にどうなるのか。細かいことではありますけれども、一番重要なとこで。それと今ある、南池のトイレとか、東屋とか既設の施設をどういうふうにやっていくのか。取り壊すっていうのもあるかもしれないけれど、利用するならする、そういうメリハリをつけないといけないと思います。上下水道。お茶屋があって、あの辺もどうするのか。 　大きな話で言えば、池の水をどうするのか。ここをこうやるのであれば、今度南池の発掘をしてもらいますけれども、三和土の状況とか、水を張る、水を使うのであれば、それなりにもれないようにしないといけないから、そういうようなことの調査とか。全域にかかるようなことを、先行して今後挙げてもらいたいと思います。 　先ほどエリアの、これを見てもらうと、二之丸御殿まで入っています。これ、平澤さんが、エイヤァーで入れたんですけれども。結局は、今度発掘してもらうところの雁行の建物の状況が、次に出てこないと、平面表示のやり方とか、そういうのがあります。そういうものがあるのと、現況のイチョウがあったりしますけれど、どうするかとか、細かい話とか出てきますが、現況とどううまくすり合わせながら、全部切ってしまえという話ではなくて、現況の施設、高木類等の処理をどうするのか、みたいなことが、この中で出てくるのではないかと思います。今年度中にそれをやってもらわないといけないので。全域に関わることを、まず考えて、もちろん園路もあるし、絵図から読み取れるものもあります。そういうものとの、計画といいますか。30 年度って言ったら、3 月までですか。これは。されるのは。今あるデータみたいなものをもう少し、さっきで言えば地形です。まずは。それと排水の現況と、今後の大きな話で、どういうようなことをやるのか。池の関係であれば、池の水を溜めるということであれば、そういう水まわりの修復の技術です。先ほど言っていたような三和土の成分とか。現代的な工法を入れるのかどうかなどの検討が出てきます。 　もうひとつ大きなのは、石の問題です。石の確保が大きいと思っています。今、なかなか篠島とかありませんから。佐久島石とか。一部持っている業者もいるみたいですけど。そういう情報は、伊藤さんが言われた河戸石は確保できそうですけれども、材料がないと修復できないので。石材バンクというか、あの話はどうですか。
事務局	予算を毎年構えていくということはなくて。制度としては、そういう、今回１個もらえるので、手水鉢を。それをモデルにして、今後もそういう申し出がきやすいように、受け入れがしやすいようにというのは、事務的に作っていきたいと思います。
丸山副座長	安っぽい灯篭はいらないけれども、受け入れるひとつのルールを作らないと。市民に呼び掛けて、市民に参画してできるというようなストー

	リーを作るのも、予算獲得にはいいと思っています。
仲副座長	前回も先生、お話されていました。今言われたように、この計画を立てる中には、実際の修復とか活用のことも考えて、必要な事項を盛り込んで、きちんと時系列の中に項目として挙げて、載せていくことが重要だ、というご指摘だと思います。 現在も公開されている庭です。今の状態でアピールできることとか、特徴を出すところも入れていって、それも意識した計画だといいなと思います。確か前回、東庭園の園路沿いにそういうのを並べて。今まで発掘で出た資材も、ひとところにまとめた状態です。今回動かさないといけないということでしたら、代表になるものを園路沿いに点々と配置して、しっかり説明番号を付けて、それを見るだけでも東庭園の魅力が引き立つような。どうせするのだったら、そんなことまでされたらどうかなと思います。その中で、寄贈してもらったものも入れて、今後の整備のために寄贈を受けたものです、というようなことをして、さらに募集しますとして、どんどん広げていったらいいなと思います。それは現状変更の関係があると思いますけれど、活用の中の仮設の位置づけをして、やれればと思います。
丸山座長	僕は、造成しなければいけないと思います。あれが一番効くと思います。起伏があったり。立体的にアピールするうえでは、今はぺたんとしていますけれども、山があって、いろんな山の名前をつけて、松江山とかあります。そういうものをのぼりでもいいです。造成して芝を貼っただけでもいいですけれど、こういう感じになるんだという期待感。造成はたいしたことない、っていったら怒られるけれど。
仲副座長	どこの造成の話ですか。
丸山座長	全体。ここの庭の。造成の一部に、余芳のところもちゃんと含めておくと。そこの一部だけを先行してやれるようなことをしておかないと。ここだけではなくて、ここ全域、南池のあたりまで。
仲副座長	それは復元ではなくて、造成をして
丸山座長	いや、復元になる、元になる造成です。
仲副座長	だから今回のこの計画の中に、全体の地形造成のものも早めに検討をして、それを先行してやっていくと。工学的なところもかねてやっていくと。
丸山座長	そうそう。そこだと一番ラクと言えばラクです。発掘よりかは。発掘しなければいけないところは、してもらわなければいけない。 それでアピールできると思うんですよ。ここの御庭も。やはり目に見えて変わらないと。もうひとつ気になっているのは、いろんなライオンズクラブとか、いっぱいあります。あれをどかさないといけない。例えば、そこにある椿とか、もらった椿とかは基本的に使えるようにしたらいいけれど、碑は全部とっぱらわないといけないから。そういうことも少し考えてほしい。

	ここの復元的整備をするにあたっては、不要なもの。特にライオンズクラブ。どこでも、ライオンズクラブはろくなものをくれないなと思って言っています。向こうも悪気はないけれども、お金でくれたらいいのにね。ものでしかくれないから困ります。それは岐阜では、どんどん取っ払いました、整備の時に。あとどこに持っていったかは知りませんけれど。
事務局	それは、いずれにしてもやらないとできあがらないですから。どのタイミングでやるか、ということになります。
丸山座長	そういう季節のさまざまなものの整理というか。さっき言ったように、トイレと東屋をどうするかという話もあります。 全域に及ぶような話を先行して書いてもらうと、文化庁のほうでも大きな流れで。それを短期、中期、長期で、できるかどうかわからないけれど、10 年後にはできているというような絵がほしいのだと思います。そうでないと、補助金が出す理由、いつまでやるのだということが、
事務局	見通しが立たないですものね。
丸山座長	それが一番、困っていると思います。 この計画は個別に、その前に、部会は年度内にもう 1 回やるのですか。
事務局	やります。
丸山座長	いつ頃になりますか。
事務局	2 月末くらいです。
丸山座長	今日来られていない方もいるので、
事務局	少し早めに調整をします。
丸山座長	2 月末は、3 日ほどしかない。そうしたら、今 2 人で空いているところをメモしていただいて。末は、中旬は入らない？
事務局	入ります。
丸山座長	19、20 に、日曜日は入れておかないといけないかな。19、20、23、24、27、28 は空いています。今のところは。
仲副座長	誠に申し上げにくいです。土日でもいいんですか。23、24 だったら今のところ確実に空いていますが、後はちょっと
丸山座長	わからない。僕もわからないです。3 月はいいですか。3 月はわりと、4 日以降は空いていますので。他のところでもそういったらあれです。早く言っていただいたら、確保します。4 日から後は、今のところ空いています。月曜から日曜までは空いています。

事務局	これは2月にしないといけないの。
事務局	2月か、3月ですね。
丸山座長	3月初旬であれば、今のところは予定ないです。早めに他の先生方、調整していただいて、決めてもらったら。早くやってもらったほうが。
事務局	このあたりは。
事務局	本会議が入っている。
丸山座長	議会が入っているのですか。
事務局	2月25日くらいまでか、3月15日過ぎくらいが、やりやすいです。
丸山座長	3月の末であれば、
事務局	全体もやらないといけない。
丸山座長	全体もやるんですか。最後のほうにしましょう。
事務局	全体、ぎりぎりですよ。3月終わりギリギリです。29とかしかない。
丸山座長	毎年そうです。そうすると、3月中旬以降だったら、今のところ13、14、15、15、16、17、19は結構です。仲先生どうですか。
仲副座長	19は今のところ大丈夫です。
丸山座長	ほかのところはダメですか。
事務局	20、21、22くらいはどうですか。
丸山座長	20はダメです。卒業式です。21は春分の日ですけど、空いていると言えば空いています。
仲副座長	21、OKです。
丸山座長	22はちょっとだめです。
事務局	ちなみに25は？
丸山座長	25はあきません。午前中であれば。遠くから来られる先生がいるので、やっぱり午後にしてあげないと気の毒なので。
事務局	早めにやっておかないと。21がリミットと思います。
丸山座長	全体って、29日でしょう。だいたい。
事務局	25からの週だと思います。全体は、25、26、27、28、29くらいで

	調整したいと思っています。
丸山座長	去年30日でしたよね。
事務局	本当に最後の日にやりました。ご迷惑をおかけしました。
丸山座長	大変な時期でした。早めにお願いします。
事務局	早めに調整します。全体も含めて。
丸山座長	今なら、皆さんも3月空いているかと思います。一覧でバーッてやってもらっていいです。ソフトがありましたよね。何とかという。スケジュールの。 それでは、その他はありますか。
事務局	最初にお話ししましたが、毎年秋に、発掘の場所を埋めもどす前に、市民向けの発掘現場説明会を行っています。今年も土日の2日間を予定しましたが、台風がその時、まともにあたってしまい、2日間ともまるっと開催ができませんでした。代わりの意味もあり、冒頭でお話しました庭園の説明会を行いました。祝日の勤労感謝の日に、2回開催し、50人、49人で、2回で100名くらいの皆さまに参加していただきました。来年以降も、発掘の時にやるか、秋の紅葉のシーズンにやるか、または両方やるか、検討していきたいと思います。
事務局	ありがとうございました。今日いろいろご意見をいただきました。整備計画の全体スケジュールのご相談を、また個別にさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。いただいたご意見は参考に、庭園の整備のほうを進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。本日は長時間ありがとうございました。